

職員による本の紹介特集



8月11日は「山の日」、祝日です。2016年に定められました。岐阜県は豊かな山に恵まれた地域です。本の中にも「山」はいろいろな形で出てきます。深～い山の中を、本でめぐってみませんか。

山の日になんで 深～い「山」の話

『死に山』

ドニー・アイカー／著

安原和見／訳（河出書房新社）786.1ア

1959年、冷戦下のソ連ウラル山脈で起こった遭難事故をご存知だろうか？9名の登山チーム全員が凄惨な姿で発見された。しかし原因はわからず、超自然的不可抗力ということで処理された。世界一不気味と呼ばれるこの事故について、アメリカ人ドキュメンタリー作家が過去、現在にわたって徹底した取材を行い、驚くべき結果へと導いていく。
 （本館 濱口）

『山女日記』

湊かなえ／著（幻冬舎）913.6ミナ

「こんなはずでなかった結婚。捨て去れない華やいだ過去。拭いきれない姉への劣等感。夫から切り出された別離。いつの間にか心が離れた恋人。」登場人物は、いずれも何らかの悩みを持つ女性です。誰にも言えない思いを抱え、山に登る彼女たちは、山という自然の持つ偉大さによって、気持ちを変化させていきます。

後味の悪い作品が多い著者ではありますが、この作品は、ちょっと違います。経験がない方でも、登山にチャレンジしてみたくなるような連作長篇作品です。
 （本館 篠田）

『黒部源流山小屋暮らし』

やまとけいこ／著（山と溪谷社）786.1ヤ

北アルプスの奥地、黒部源流にある山小屋の1つ薬師沢小屋。薬師沢小屋でトータル12シーズン働いた著者・やまとさんの、小屋開きから閉じるまでの山小屋生活が楽しい文章とイラストで綴られています。山にかかわる大勢の方たちのおかげで山歩きが楽しめているのだなあと思った1冊です。
 （本館 溝口）

『日本百低山』

日本山岳ガイド協会／編（幻冬舎）291.0ニ

この本は「山の日」が祝日と決まった時に企画された47都道府県の標高の低い名山を紹介している1冊です。「山の日」の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」にふさわしい山を選んだそうです。山麓まで近く、思い立ったらすぐ行ける。読みやすくシンプルな書き方で登山の初心者にお勧めします。
 （本館 饒村）

『山怪 山人が語る不思議な話』

田中康弘／著（山と溪谷社）388.1タ

日本の山には生物かそうでないのか分からない何かがあって、それは古今東西様々な形であらわれ、老若男女を脅かします。フリーランスカメラマンの著者が、報道取材した際に全国各地で地元の人たちに聞いた、山での不可思議な出来事。その体験談が収録されています。秋田県のマタギが見た狐火や岩手県の飛ぶ女。民話や昔話と違って起承転結がはっきりとしていないところが余計にリアルに感じられ、ゾクゾクします。暑い夏にひんやりとしたい方におすすめの一冊です。
 （帷子分館 倉知）

『神去なあなあ日常』

三浦しをん／著（徳間書店）913.6ミナ

高校卒業と同時に横浜育ちの平野勇氣が放り込まれたのは、携帯電話も繋がらない三重県の山奥にある神去村。全く経験もないまま、毎日チェーンソー片手に山仕事。そこでは山仕事の天才である先輩ヨキなど、林業に従事し、自然を相手に生きてきた人々と出会います。過疎化と高齢化が進む林業の世界を若者目線で描いた小説です。
 （本館 樋山）



『高野聖』 『日本の文学8』に収録

泉鏡花／著（ほるぷ出版） 918.6＝8

深い山奥にポツンと一軒家。明治の文豪の描く一軒家では妖しく不思議な出来事が起こります。岐阜県飛騨市と大野郡白川村の境界上にある天生峠、今でも冬季閉鎖となる急坂・急カーブの多い山岳路が舞台です。高野山の上人がまだ若き修行僧であったころ、蛇や蛭に難儀しながら峠を越えた先に少年と婦人が棲む山家がありました。一晚泊めてもらえることになりましたが…。泉鏡花の独特の文体が、幻想と幽玄の世界への誘ってくれます。（本館 林）

『山の音』『ちくま日本文学 026 川端康成』に収録

川端康成／訳（筑摩書房） 913.6ナ

ある夜、自宅の裏山から聞こえてきた不可思議な「山の音」。62歳の主人公、信吾には、それが自らの死を宣告する音に聞こえる。

舅の立場でありながら、若く美しい嫁の菊子に淡い恋心を抱く信吾。愛人を作り悪びれる様子が全く無い息子の修二。女性への眼差しが、ある種異常な父と息子だが、その背景には意外な理由があった…。

戦後の鎌倉を舞台に、悩める家族の人間模様を描いた作品。（桜ヶ丘分館 堀）

『呼ぶ山』

夢枕獏／著（メディアファクトリー） 913.6ユメ

山の靈気に溢れた8編からなる山岳短編集。山の中では人は小さな存在。暗闇、吹雪、遭難、飢えに孤独。山は怖くて恐ろしい。

浅い眠りの中、聞こえてくる風の音、木々のざわめき、いるはずのない人の声、獣の臭い、何かの気配…。これは夢か現実か。

臨場感あふれる文章から山の狂気、靈気を肌で感じる事ができ、読後はちょっぴり背筋が涼しく感じられる夏にぴったりの作品。

（帷子分館 磯道）

『地球のてっぺんに立つ！エベレスト』

ステイヴン・ジェンキンス／著（幻冬舎） 292ジ

登山家の憧れの山、エベレスト。この本は作者が和紙の切り絵で、素晴らしい山肌を、輝く山頂を、精緻に表現しています。エベレストを肉眼で見ることが叶わない私達にとって、登山口、道具の種類、ベースキャンプや雪崩等、写真以上のリアルさ。読み終わったあとは、胸が締め付けられるような山への憧れが、あなたの心に残ることでしょう。（帷子分館 瀬尾）

『百年前の山を旅する』

服部文祥／著（東京新聞出版） 291.0ハ

登山家であり猟師でもある著者が、百年前の登山家と同じ装備で同じコースを辿る——そんな山旅の記録から始まる一冊です。著者がサバイバル登山（装備を極力廃し、食糧を現地調達する）を志すのは、現代文明を遠ざけて古の山人と同じ体験をし、感じ方や考え方でなぞるため。そして人間の文化とは別次元の命の掟に思いを馳せます。その考察から生まれたと思われる小説『息子と狩猟に』（新潮社）も併せておすすめします。

（本館 熊崎）

『諸国名峰恋慕』

手塚宗求／著（山と溪谷社） 786.1ヲ

信州・霧ヶ峰高原車山肩の山小屋「コロボックル・ヒュッテ」を創設した著者が、八ヶ岳、美ヶ原、蓼科山など信州を中心とした三十九の山々への想いを綴った1冊。

道路が整備されておらず、歩いて荷物を運びあげた時代、山小屋は人を守ってくれる屋根であった。人とのつながりや、自然の恩恵を感じることのできる古き良き時代。

読後に訪れる信州は、今までと違った顔を見せてくれるのではないのでしょうか。

（桜ヶ丘分館 春日井）

『山小屋ごはん』

松本理恵／著（山と溪谷社） 596ヲ

車でも行けてしまうような場所から、何時間も歩いた末にたどりつける場所まで、さまざまな山小屋のごはんが紹介されています。メニューだけをみればありふれたものだったり、山なのに？と思うようなものだったり。けれどそこには作り手の思いやこだわり、登山者への心遣いがあふれています。山小屋ならではのあたたかな人とごはんのエピソードが詰まった1冊です。ぱらぱらとめくって写真を見るだけでも楽しめます。

（帷子分館 長江）



『富士山大ばくはつ』

かこさとし／作（小峰書店）**K453カ**

みなさんは、日本一高く美しい山、富士山が火山であることを知っていますか？

その昔、地底のマグマが噴出し、富士山のもとが生まれ、その後何度も噴火を繰り返して現代の美しい富士山が形創られました。

今の富士山は、火山としての活動は休止中ですが、今後は一体どうなるのでしょうか？

富士山の過去・現在・未来を見てみませんか？
（帷子分館 真鍋）

『ベニシアの京都里山日記 大原で出逢った宝物たち』

ベニシア・スタンリー・スミス／著（世界文化社）**590.4ス**

ベニシアさんはイギリス貴族出身のハーブ研究家。19歳で貴族社会に疑問を感じてインドに渡り、71年に京都大原で100年以上の古民家を自ら修理しながら、人々と自然に囲まれ暮らすベニシアさんの自叙伝になっています。

日本の古道具や海外のアンティークを大切に使われている暮らし方は、吟味する事、気に入ったモノを丁寧に長く使っていく事、無駄にしなければ不足もない事を今だからこそ必要だと考えさせられます。
（桜ヶ丘分館 三浦）

『高く遠い夢 ふたたび』

三浦雄一郎／著（双葉社）**292.5ミ**

80歳の時にエベレストに挑戦した著者の登頂記録です。そこに至るまでの綿密な計画、現地での状況に合わせた柔軟な対応力。三浦さんはもちろんすごいのですが、支える人たちもプロフェッショナル。そして、命をかけた過酷な場所での明るさやユーモア、そこから生まれる余裕がすごいと思います。カトマンズから下山まで日記形式で書かれているため臨場感があり、山のことを知らなくても読みやすいです。
（本館 橋本）

『クライマーズ・ハイ』

横山秀夫／著（文芸春秋）**913.6ヨ**

8月のお盆の時期は、1985年の御巣鷹山日航機墜落事故を思い出さずにいられません。この小説は、世界的なニュースとなった日航機事故を巡る、一地方新聞社の奮闘を描いています。まだインターネットや携帯が普及していなかった時代、ファックスやポケベルなどで大事故の報道取材がされており、当時の空気や人々のあり方までも、非常にリアルに再現されています。

「クライマーズ・ハイ」とは、登山者の興奮状態が極限まで達し、恐怖感が麻痺してしまう状態のこと。史上最悪の事故に遭遇した新聞記者の、緊張感と使命感が伝わってきます。
（本館 長谷川）

『山おとこのてぶくろ』

松谷みよ子／文 田島征三／絵（ほるぷ出版）**EMヤ**

民話をもとにした絵本。三姉妹を次々連れ去り、大きくなってぶくろを飲めと言う山おとこ。2人めまでは「飲んだ」と嘘をついて山おとこに殺されてしまう。3人めの娘が言われたとおりにてぶくろを飲むと、山おとこは「うそつかね よめこ ほしかった」とうれし泣き。結局山おとこは若者に殺されてしまう。3回めに山おとこが殺されるだけの話ではなく、嘘をつかない娘に山おとこがうれし涙を流し、娘も死んだ山おとこのことを時々思い出すというところに「深い」ものを感じます。
（本館 可児）

『森ではたらく！』

古川大輔・山崎亮／編著（学芸出版社）**651.7モ**

日本中の森ではたらく27人の27の仕事を紹介している。その仕事は、多種多様であるが、共通しているのは、山との関わりである。山の育成管理には時間がかかることや、人間の力の及ばない自然相手であることから、はたらいっている人達の意識・姿勢は、どこか深い。

想像ができない苦労もあるだろうが、山ではたらく喜びに溢れている。

（帷子分館 松浦）

『岐阜の山城ベスト50を歩く』

三宅唯美／編（サンライズ出版）**291.5ギ**

可児市内にはいくつもの山城跡があるのをご存知ですか？「山城」とは文字通り「山に築かれた城」。可児からは「金山城」「久々利城」など4つの城が載っています。有志の皆さんのご尽力で整備が進み、気軽に訪問できるようになりましたが、まだまだ県内には、草木に阻まれ、登山並みの労力をかけないと訪問できない城もあるそうです。

今年11月には可児市で「第26回全国山城サミット」が開催されます。可児市の宝である「山城」、多くの皆さんに関心を持っていただければ嬉しいです！
（桜ヶ丘分館 福井）

あたらしく入った本

分類	書名	著者名	出版者名
心理・宗教			
159.7/サ/	本当の「頭のよさ」ってなんだろう? 「頭がいい」とは脳の「状態」。頭のはたらきのいい状態のときは、目の前の問題が簡単に解決できるし、未来を楽しく創り出していくことができる。頭のいい状態を増やし、現実を変える力を手に入れる方法を詳しく解説する。	齋藤孝/著	誠文堂新光社
186.8/ミ/	みるみるつながる仏像図鑑 “つながり”で見る仏像図鑑。古代から近代にいたる多種多様な仏像とその背景を、紹介される機会の少ない室町・安土桃山・江戸時代の仏像にもスポットをあて、多数のイラストとともに解説する。	三宅久雄/監修	誠文堂新光社
歴史・伝記			
210.4/フ/	本能寺の変(講談社学術文庫) なぜ信長は天下統一を目前にして、光秀に討たれたのか。信長は何と戦い、何に負けたのか。歴史を転換させた政変の核心を衝く試みは、戦国時代とは、室町幕府とは、中世・近世とは何か。歴史研究者が根源的な問いを論考する。	藤田達生/[著]	講談社
289.1/ア/	明智光秀・秀満 織田家重臣として活躍しながらも、主君信長への謀反を起こした明智光秀とその女婿秀満。謎に包まれたふたりの前半生、そして行動と人となり、さらには本能寺の変に至った動機と背景を解明する。	小和田哲男/著	ミネルヴァ書房
289.1/ア/	明智光秀と近江・丹波 明智光秀とはどのような武将だったのか。なぜ織田信長を裏切ったのか。交わされた書状類を丹念に読み込み、近江国志賀郡・丹波国領主から本能寺の変に至った明智光秀の人物像に迫る。	福島克彦/著	サンライズ出版
社会			
312.1/レ/	令和改元の舞台裏 「令和」への改元準備は、「平成」改元の頃からすでに始まっていた。その重責を担ったのが、国立公文書館の公文書研究官である男性だった。改元までの軌跡を追ったノンフィクション。	毎日新聞「代替わり」取材班/著	毎日新聞出版
334.3/カ/	河合雅司の未来の透視図 高齢者の激増、勤労世代・出生数の激減、全国で町やモノが消滅…。日本の目前に迫るクライシスを、グラフや表を多用して解説。「戦略的に縮む」ための提言も行う。「未来の年表」の副読本。	河合雅司/著	ビジネス社
383.8/タ/	食べられる虫ハンドブック 環境にやさしく生産効率に優れた食材として注目されるようになった昆虫。入手が比較的容易で食用に適した132種を厳選し、調理法や味・食感などを紹介した、コンパクトなハンドブック。	内山昭一/監修	自由国民社
388.1/ア/	日本現代怪異事典副読本 現代怪異の世界を探索するためのガイドブック。類似した特徴を持つ怪異たちを集め、その共通点を考察するほか、怪異たちの出没場所や使用凶器、日本各地方ごとの怪異の特色を紹介。新怪異50点も掲載する。	朝里樹/著	笠間書院
自然科学・医学			
410/サ/	この数学、いったいつ使うことになるの? 数学の内容は、社会のどのような場面で利用され、活用されているのか。さまざまな職業に結び付けた分数、百分率、体積・容積、一次方程式などの問題を多数収録。数学の有用性を感じ得る問題集。	Hal Saunders/著	共立出版
488.5/ハ/	ハシビロコウのすべて 動かない、よく白目をむく、夢に出てきそう…。謎だらけの鳥「ハシビロコウ」の秘密を大公開! そのストーリーや体のしくみ、移動方法、狩りの仕方を解説するほか、ハシビロコウに会える国内の動物園リストなどを収録。	今泉忠明/監修	廣済堂出版
491.3/ベ/	あなたが生まれてくるまでの話 卵子に到達するまでの精子の過酷な旅から、胎児が初めて外の世界の空気を吸い込むまでの話をわかりやすく綴った入門書。遺伝学的、発生学的な歴史の断片を織り込みながら、その発展していく詳細の不思議さを描く。	カタリーナ・ヴェストレ/著	河出書房新社

技術・家政

- 521.8/イ/ **絶壁建築めぐり** 飯沼義弥／著 G.B.
 急峻な崖や山の斜面に建てられた「崖造り」のお寺・神社をめぐり歩いた記録。青森県の見入山観音堂から沖縄県の末吉宮拝殿まで、SNS 等で発信したもから厳選した 100 ケ所を写真と共に紹介。
- 598.2/レ/ **父親の科学** ポール・レイバーン／著 白揚社
 父親は子育てに本当に必要なのか？ これまで見過ごされがちだった男親の育児の価値を、5 人の子供の父親である著者が科学の視点で徹底検証。〈意外にすごい〉お父さんの役割を明らかにする。

産業

- 625/サ/ **里山食堂が教える果樹の収穫・保存・料理** 西東社編集部／編 西東社
 梅、びわ、アボカド、プルーン、オリーブ…。庭木として植えている果樹になった果実の収穫方法や保存法、デザートや料理のレシピを季節別に紹介する。果樹や果実についての役立ち情報や切り方・皮のむき方なども掲載。
- 673.9/サ/ **遺体と火葬のほんとうの話** 佐藤信顕／著 二見書房
 孤独死したらどうなる？ お金がまったくない場合の葬儀費用は…？ 葬儀にまつわるあらゆるテーマを、葬儀屋 3 代目が真摯に解説する。元火葬師との対談も収録。

芸術

- 723.0/ハ/ **原田マハの印象派物語** 原田マハ／著 新潮社
 モネ、ドガ、ルノワール、ゴッホ…。貧困、世評、病と闘いながら新しい道を切り拓いていった印象派の画家たちの物語を、作品とともに紹介する。
- 751.1/ク/ **美濃のやきもの西浦焼** 久野治／著 中日出版
 多治見市が生んだやきもの「西浦焼」。実業家であった二代目・西浦圓治、万国博覧会への出品など、明治に生まれ、栄えて、明治とともに終わった「西浦焼」の歴史を紹介。西浦焼の前史として、美濃のやきもの流れも伝える。

日本文学ー小説

- 913.6/イケ/ **ノーサイド・ゲーム** 池井戸潤／著 ダイヤモンド社
 大手自動車メーカーのエリート社員・君嶋は工場の総務部長に左遷され、ラグビー部のゼネラルマネージャーを兼務することに。ラグビーの知識も経験もない君嶋が、お荷物社会人ラグビーチームの再建に挑む。
- 913.6/イサ/ **クジラアタマの王様** 伊坂幸太郎／著 NHK 出版
 製菓会社に寄せられた 1 本のクレーム電話。広報部員・岸はその事後対応をすればよい…はずだった。だが訪ねてきた男の存在によって、岸の日常は思いもよらない事態へと一気に加速し…。書き下ろし長篇小説。
- 913.6/イマ/ **むらさきのスカートの女** 今村夏子／著 朝日新聞出版
 近所に住む「むらさきのスカートの女」が気になる〈わたし〉。自分と同じ職場で働くよう彼女を誘導し、その生活を観察し続け…。狂気と紙一重の滑稽さ。〈わたし〉が望むものとは？ 第 161 回芥川賞受賞作。
- 913.6/ウブ/ **剣樹抄** 冲方丁／著 文藝春秋
 捨て子を保護し、謀者として育てる幕府の隠密組織〈拾人衆〉に加わった少年・六維了助。様々な能力に長けた仲間と共に、明暦の大火が幕府転覆を目論む者たちによる放火だという疑惑を追うが…。
- 913.6/オガ/ **あとは切手を、一枚貼るだけ** 小川洋子／著 中央公論新社
 かつて愛し合い、今は離ればなれに生きる「私」と「ぼく」。2 人を隔てた、取りかえしのつかない出来事。14 通の手紙に編み込まれた哀しい秘密とは…。
- 913.6/カノ/ **いつかの岸辺に跳ねていく** 加納朋子／著 幻冬舎
 生きることに不器用な徹子と、彼女の幼なじみ・護。ふたりの物語が重なったとき、温かな真実が明らかになる…。「フラット」と「レリーフ」を収録。
- 913.6/カミ/ **ガラスの城壁** 神永学／著 文藝春秋
 父が逮捕され、中学 2 年生の悠馬はいじめられるようになった。父の無実が明らかになっても、学校での居場所はない。転校生の暁斗から「真犯人を捕まえられるんじゃないか」と提案され、2 人は事件を調べ始めるが…。

913.6/クボ/	いるいないみらい	窪美澄／著	KADOKAWA
	妊活を始めて4カ月。時間がないとあせる妻に対し、夫の睦生は…。子どもがいてもいなくても、毎日を懸命に生きるすべての人へそっと手を差し伸べてくれる全5編を収録。		
913.6/サワ/	月人壮士(おとこ)	澤田瞳子／著	中央公論新社
	東大寺大仏の開眼供養から4年、仏教政策を推進した帝の宝算は尽きる。道祖王を皇太子にとの遺詔が残されるも、その言に疑いを持つ者が…。競作企画「螺旋プロジェクト」の古代編。		
913.6/ハシ/	黄金夜界	橋本治／著	中央公論新社
	一夜にして許婚者と金と家を失い、地べたを這う「金の悪鬼」となった東大生・貫一。壮絶な彷徨はやがて、裏切りの末路と交差する…。尾崎紅葉の「金色夜叉」を現代に蘇らせた橋本治の遺作。		
913.6/ハヤ/	店長がバカすぎて	早見和真／[著]	角川春樹事務所
	谷原京子、契約社員、時給998円。店長が、小説家が、弊社の社長が、営業がバカすぎて「マジ辞めてやる!」でも、でも…。本を愛する書店員の物語。		
913.6/ヒガ/	希望の糸	東野圭吾／著	講談社
	死んだ人のことなんか知らない。あたしは、誰かの代わりに生まれてきたんじゃない。ある殺人事件で絡み合う、容疑者そして若き刑事の苦悩。書き下ろし長編ミステリー。		
913.6/モリ/	カザアナ	森絵都／著	朝日新聞出版
	国の規制が強まり監視ドローンが飛び交う空のもと、タフに生きる中学生の里宇とその家族。一家は、不思議な力を持つ「カザアナ」と出会い、人々を笑顔にするささやかな奇跡を起こしていく。		
913.6/ワタ/1	生のみ生のままで 上・下	綿矢りさ／著	集英社
	恋人と出かけたリゾートで、25歳の逢衣は彼の幼なじみと、その彼女・彩夏に出会う。逢衣と彩夏は東京へ帰った後も親しく付き合うようになるが、ある日とつぜん、彩夏に唇を奪われ…。		

本館 1 階 展 示 コ ー ナ ー の 予 定

■ 8 / 3 (土) ~ 29 (木) ■

カンタン絵本づくり作品展

8月2日、3日に開催した講座「カンタン絵本づくり」の作品を展示します。小学生の皆さんの力作をご覧ください。絵本の作り方の本も展示します。

■ 8 / 31 (土) ~ 9 / 22 (日) ■

命を守る図書展(自殺予防週間9月10日~16日)

日本では自殺によって多くの尊い命が失われています。自殺の多くは防ぐことができる社会的な問題です。自殺予防、うつ病、命の大切さに関するパネルや図書を展示します。

貸出カードの登録内容を確認します

図書館の貸出カードの有効期限は3年です。有効期限が近づいた方にはカウンターでお声かけし、住所・電話番号等の確認を行います。

登録内容の確認のため、住所の証明できるものをご提示ください。ご本人がご来館ください。高校生以下の方は、保護者の方の証明でも可能です。

有効期限が切れても、貸出・予約等はできますが、ホームページ上での貸出更新ができません。また、期限から3年を経過すると、カードは除籍になりますのでご注意ください。

開館時間【本館】平日 10:00~19:00、土日祝 10:00~17:00

※8月28日までは、9:30に開館します。

【分館】全日 9:00~17:00

休館日 毎週月曜日、毎月最終金曜日

8月5,12,19,26,30日

お盆休みはありません。

【臨時休館】9月23日(月)~27日(金)は、蔵書点検のため、全館休館します。

スマート
フォン用
サイト



「図書館だより」2019年8月号

発行：可児市立図書館 電話 (0574) 62-5120

資料検索・予約は <http://www.kani-lib.jp/> をどうぞご利用ください。